

計画策定にあたっての各種調査 結果概要（一部速報）

次期計画の策定にあたり、毎年の進捗状況調査とは別で下記の意識調査を実施。

○実施した各調査の概要、結果

《全般》

- ・調査全般において、子ども・若者の文化芸術にふれる機会の充実に対するニーズがうかがえる。
- ・また、活動や支援に関する情報提供についてもニーズがあることがうかがえる。

① 文化芸術への意識に関するアンケート調査 【令和6年度調査】（速報）

- ・調査対象：無作為抽出した18歳以上の県民3,000人
- ・調査方法：アンケート調査票による書面調査（ネット回答可）
- ・調査期間：令和6年6月18日～7月12日
- ・回収率：40.2%（1,206人）

【参考】前回調査時（令和元年度）

- ・調査対象、方法は今回調査と同様
- ・調査期間：令和元年9月10日～10月15日
- ・回収率：35.1%（1,052人）

集計結果

- ・文化芸術を鑑賞したと回答した方は約89%であり、前回調査よりも3ポイント増加し、また鑑賞しなかったと回答した方は約10%であり、前回調査よりも2.8ポイント減少した。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行以前と以後での鑑賞頻度の変化について、「増加した」と「変わらない」をあわせると7割台半ばとなり、「減少した」は約2割であった。
- ・文化芸術活動を行うことに興味のある方が約4割いるが、そのうち5割台半ばの方が活動をしておらず、その理由として「仕事・育児・介護等で忙しく参加できない」が最も多く、次いで「自分の都合のよい日時に実施されていない」、「活動に関する情報が得られない」だった。
- ・文化芸術活動を行うことに興味・関心がない方は約6割となり、前回調査よりも増加した（前回：4割台半ば）
- ・自分の地域に伝統芸能があるかどうか知らないという回答が4割を超え、前回調査よりも増加した（前回：3割程度）また地域に伝統芸能があると知っている人のうち、「参加しているが続けたくない」、「参加していないし今後も参加したくない」との回答が合わせて約7割となった。
- ・県が積極的に取り組むべき分野は「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」が4割台半ばと最も多く挙げられた。

② 文化芸術の振興に関するアンケート調査 【令和5年度調査】

- ・調査趣旨：次期計画の基礎資料とするとともに、今後の文化振興施策や事業展開の参考資料とするための意識調査
- ・調査対象：千葉県芸術文化団体協議会加盟団体及び千葉県美術会、千葉県博物館協会、千葉県文化財保護協会の計58団体
- ・調査方法：アンケート調査票による書面調査（ネット回答可）
- ・調査期間：令和5年10月27日～11月30日
- ・回収率：74.1%（43団体）

【参考】前回調査時（令和元年度）

- ・調査対象：今回調査と同様（団体数：計60団体）
- ・調査方法：今回調査と同様
- ・調査期間：令和元年9月10日～10月15日
- ・回収率：68.3%（41団体）

集計結果

- ・平均年齢は70代以上が最も多い。
- ・約9割が年1回以上の発表会や展示会を行っており、ほぼすべての団体が会員以外の参加を受け付けている。また、9割以上の団体が障害者の方に参加してもらいたいと思っている。
- ・活動上の課題として、「新規加入者が少ない」を挙げている団体が8割台半ばで最も多い。
- ・自らの役割として、また県へ求める役割としても、子どもたちへの文化芸術の普及、教育が多く挙げられており、前回調査の結果と同様であった。
- ・新型コロナウイルス感染症により、8割台半ばの団体が事業や活動内容に変化があり、活動の中止・解散や、規模の縮小、活動方法の変更（オンライン化）などがあった。

③ 障害者文化芸術の振興に関するアンケート調査【令和5年度調査】

- ・調査趣旨：次期計画の基礎資料とするとともに、今後の文化振興施策や事業展開の参考資料とするための意識調査
- ・調査対象：県内に所在する障害者福祉事業所等 計60団体
- ・調査方法：アンケート調査票による書面調査（ネット回答可）
- ・調査期間：令和5年10月27日～11月30日
- ・回収率：65%（39団体）

集計結果

- ・ 平均年齢は40代が最も多い。
- ・ 事業所等の利用者のうち、文化芸術活動に参加している人の割合は「1～3割」が最も多く、実施している活動としては鑑賞が8割台半ば、次いで創作が約8割となった。
- ・ 活動の際に協力してもらう機関はボランティアや福祉施設などの関係者が多く、文化施設は2割台半ば、文化団体・関係者は約2割であった。
- ・ 活動上の課題として、支援に関する情報が障害者本人に十分届いていないことが5割台半ばと最も多い。
- ・ 県へ求める支援としては、アウトリーチ活動による鑑賞・体験機会の提供や、鑑賞や発表に関する相談や情報提供に関するものが多く挙げられた。